

2月27日(火)

偽善者

聖書朗読 ローマ人への手紙 12:9~21

また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。 マタイ 7:3

最近、私は木曜の夜の聖書研究会に出席することにしました。教えてくれるのは親しい友だちのジェラルドで、彼が教えてくれる福音は本当に恵みです。

今、ローマ人への手紙を勉強していて、1章と2章をほぼ終えたところです。ジェラルドが教えてくれる聖霊に導かれたみことばによって、ローマ人への手紙の最初の2章に関して、いくつかの問題への誤解を解くことができました。私は、他人を非難し、あら探しをし、自分が人よりまさっていると思ってしまう、悪い癖に陥りがちだと気付きました。そんな風に思ったり感じたりすることを、私や私のまわりの人たちは、はっきり意識していませんでした。心の奥に秘められた思いでした。聖霊は今、私が自分の目から梁を取りのける助けをしてくださっています。

私たちが注意深く、身を慎み、目をさましていなければ、知らず知らずのうちに偽善が入り込んできます。(ペテロ I 5:6)

あなたはどうですか。他の人に対して、否定的な罪深い思いを持っていませんか。思い当たる節があるならば、悔改めて、神様にお委ねしましょう。私は偽善者にはなりたくありません。あなただってそうだと思います。

『神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。』 (詩篇 139:23~24)

讃美歌 403

祈り 天のお父様、私がお人々のことをどう思っているか気付けるように助けてください。何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにできますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

コロラド州 カノンシティ
ロン・グロース

2月28日(水)

プラグに差して電源を入れる

聖書朗読 コリント人への手紙 第二 4:1~18

それは、あなたがたの持つ信仰が、人間の知恵にささえられず、神の力にささえられるためでした。 コリント I 2:5

私たちの生活には多くの機器があふれていて、それらをプラグに差して、充電し、電源を入れ、使用しています。この《今日の力》を開いて、その名前や、クリスチャン生活上の重要性について考えたことはありますか。あなたは今、キリストとそのみことばの力にプラグを差そうとしているのです。マタイ28:19にはこうあります。『わたし(訳注:イエス様)には天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。』イエス様の御力は完全であり永遠です。私たちはまた、『神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭』いことを知っています。(訳注:ヘブル 4:12)これからあなたは、この力強いみことばについて黙想しようとしているのです。

イエス様に体現されている神様のみことばこそ、私たちの力の源です。ヨハネ 1:12には、『この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。』と書かれています。あなたは神様の子どもになるために、この特権を得ていますか。

神様の子どもである私たちの『外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。』(コリント II 4:16)主と主の御力に焦点を合わせることによって、私たちの霊的・精神的な力は日々、強められ再充電されます。みことばが私たちのうちに宿るなら、神様が忠実な神の子どもたちに約束された永遠の栄光を知って、新たにされるのです。

あなたは、永遠の力の源であるお方に繋がっていますか。繋がっていれば、今日、神様の御力があなたを通じてどんなことを成し遂げられるでしょうか。

聖歌 425

祈り 天のお父様、あなたのみことばに繋がっていられますように。みことばとお導きによって新たにしてください。イエス様を人々に伝えるために、力と勇気と大胆さをお与えください。力あるイエス様の御名によって。アーメン。

ペンシルベニア州 カーライル / ジェームズ・ダイチ

2月29日(木)

証人

聖書朗読 コリント人への手紙 第二 5:20~21

こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して
懇願しておられるようです。 コリントII 5:20

陪審員を務めたり、陪審裁判の証人になったりしたことはありますか。私は何
回か陪審員を務めた経験から、弁護側にとっても検察側にとっても、証人の力が
大であると実感しました。イエス様に従う私たちは、信仰の証人を務めるために
召されたのだと、聖書に書いてあります。ヨハネは、イエス様のことを証しするた
めに召されました。私たちは、言葉、行い、態度によって、私たちが主イエス様につ
いて信じていることを証明します。教育や説教によって公然と行うことができる人も
いれば、個人的な交際や証しの例によって力強く証言する人もいます。

コロナ禍の間、以前は私たちの大学では見かけなかった新しい人が教会にい
るのに気が付きました。私は彼を歓迎し、彼が新しい環境で居心地良いと感じら
れるように手助けしました。数か月経って、しばらく彼の姿が見えないことに気付
きました。つまんなくなってしまうんだと思って忘れることもできましたが、私は
彼のことを諦めていませんでした。止むに止まれぬ思いで連絡を取り、最近、会っ
ていなくて寂しく思っていると言いました。彼は、私が彼がいないことに気付き心
配していることに驚いていました。やがて、彼はイエス様を信じバプテスマされ、キ
リストの愛の証人を得たことを感謝しました。彼の場合には、気付いて応答する
だけでよい、すぐできることでした。ですから、あなたもキリストの証人として召さ
れていると感じるなら、耳を澄ましてください。

聖歌 525

祈り お父様、あなたを証しする時を意識していただけますように。そして、あなた
のご生涯を証しする勇気を与えてください。地味な忠実な暮らしによ
って、私たちがキリストの使節を務めることができるのを理解できますよう
に。救い主のお名前によって。アーメン。

カリフォルニア州 サウザンド オークス
スーザン・ギボニー

3月1日(金)

恩送り

聖書朗読 ガラテヤ人への手紙 5:22~26

しかし、遊女ラハブとその父の家族と彼女に属するすべての者とは、ヨシュアが
生かしておいたので、ラハブはイスラエルの中に住んだ。今日もそうである。
ヨシュア 6:25

ガラテヤ人への手紙に書かれている御霊の實のリストの真ん中に挙げられて
いるのが、親切です。この特性はルツ記にも見られ、ボアズはルツに親切にしてや
りました。彼は、ルツに対する責任を果たし、貧しさから救い、養い、ナオミの息子
である、ルツの亡き夫の子孫が確実に名前を継ぐことができるように取り計らい
ました。

よそ者のモアブ人であるルツに対して、ボアズはなぜ親切にしたのでしょうか。
幼い頃、家庭で母親から教わったのでしょうか。マタイ 1:5にある系図を見ると、
ボアズの母親がラハブであると分かります。遊女であり異教徒でもあるラハブ
は、偶像崇拜をしているエリコの町に住んでいました。聖絶を免れ生かされた
という親切によって、ラハブの人生は変えられました。彼女はイスラエルの真の神様
を信じる者となったのです。(ヨシュア 6:25)

ラハブは幼いボアズに、偵察に来た使者たちをかくまったおかげで、一族全員
が助かったのだという話をしたのでしょうか。使者たちがどんな風に彼女に同情し
て優しくしてくれたのか話したのでしょうか。エリコの町が滅ぼされた時、彼女の
家族だけが救い出されたことを伝えたいのでしょうか。ボアズはきっとその話をよく知
っていて、影響を受けたでしょう。よそ者ルツに会った時、ボアズは幼少時の母の
教えを実践したのです。あなたはどのように親切を示していますか。あなたから親
切を学んでいる人がいるのでしょうか。

讚美歌 II 83

祈り お父様、あなたが日々、親切にしてくださっているのですから、私たちも
会う人みなに、言葉や行いで親切にできますように。イエス様のお名前
によって。アーメン。

オクラホマ州 エドモンド / サリー・ジェーン・シャンク

3月2日(土)

神様の真理が支配する

聖書朗読 エペソ人への手紙 1:3~10

また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、
エペソ 1:18

ウォールストリート・ジャーナル紙の漫画“ペッパー&ソルト”の一コマです。裁判で宣誓しようとしている人の前に弁護士が立っています。事務官が「あなたは真実を述べると誓いますか。」と訊くと、弁護士は異議を唱え、「“真実”の定義を求めます。」と言います。現代は個人の時代で、さまざまな定義や信条や権威に疑いを抱きます。私たちは真実をどのように定義しますか。

大いなる霊的真理が“自我”信仰に取って代わられました。そのために、信仰がおかしなところで挫折します。“自我”を信仰の先頭に立たせていると、自分の期待にそぐわない誰かや何かに遭遇すると、信仰が中断されるのです。

エペソ人への手紙で、パウロは真理を定義して、キリストにある贖いこそ真理であり、私たちが信じ従わなければならないものであると言います。イエス様を信じれば、失望することはありません。イエス様の教えは私たちすべてを主のお働きに関わらせてくださるものです。

“我々は、神のみことばによって、自我に立ち向かい、安穩を乱し、自己満足を根こそぎにし、思考・行動様式を打ち破ってもらわねばならない。”

—ジョン・ストット*

*訳注:英国国教会司祭(1921-2011)

新聖歌 291

祈り 偉大なる主よ、自我によって霊的成長が損なわれていることをおゆるしてください。あなたの真理が私たちの思いを支配してくださいますように。



《ペッパー&ソルト》
困難をはるかに越える希望をあなたに置くことができますように。キリストにある豊かな恵みのゆえに。アーメン。

テキサス州 ハイランド ヴィレッジ
ラリー・ケイン

3月3日(日)

岩なるキリストの上に建てる

聖書朗読 エペソ人への手紙 2:19~22

あなたこそ、私の巖、私のとりでです。

あなたの御名のゆえに、私を導き、私を伴ってください。 詩篇 31:3

ある時、私は、“丘の上の我が家(天国)”という讚美歌をロズさんでいました。それは、天国について語られている讚美歌です。そこで、私は聖書が天国についてどう語っているかを調べてみました。すると、聖書には天国のことがそれほど詳しく書かれていないということが分かりました。

そんなことを思い巡らしていると、この地上も天国の一部なのではないかと思われました。私は教会や兄弟姉妹に様々なことで助けられました。ある時は、病気の時に、姉妹方がお見舞いに来て下さいました。ある時は、辛い状況の私に手紙をくれた姉妹、あるとき特別な賞をいただき、共に喜んでくれた大勢の兄弟姉妹など、多くの方の助けがあって今の私があると痛感します。

そこで思いますに、教会の歩みや兄弟姉妹との信仰生活はまさに天国の一部なのではないでしょうか。この地上での教会生活や信仰生活は、まさに天国に続いているのだと思います。霊的な目でみるならば、ここも神の御国なのです。実際の天国は「混じりけのないガラスに似た純金」(黙示21:18)でできているすばらしいところだと言われています。いつか、そこに行くと思うと今からワクワクしています。

讚美歌 90

祈り 主よ、あなたを知る助けをしてくれたすべての人に感謝します。私たちも同様に周りの方を助け、彼らが信仰を持つことができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。



ジョージア州 マリエッタ
マージョリー・ギリス
(編集者により加筆修正しました)